

安全な輸血療法を目指して

輸血は血液疾患等において重要な支持療法ですが、副反応のリスクを伴います。中でもアレルギー性輸血副反応（ATR）は発症頻度が高く、多くは蕁麻疹などの症状ですが、まれに生命を脅かすようなアナフィラキシーショックを発症することもあります。

私たちの研究グループでは、ATRの発症には①血液製剤由来と②患者由来の両方に原因があると推測しています。①は献血者から採血された血液中にアレルギー性物質（花粉など）が含まれていることにより発症する可能性、②は患者自身のアレルギー遺伝素因が関与することにより発症する可能性を考えています。両サイドからATRの原因を解明することで、より安全な輸血療法の提供を目指しています。

1) Usami Y, Yanagisawa R, *et al*: Basophil activation test for allergic and febrile non-haemolytic transfusion reactions among paediatric patients with haematological or oncological disease. *Vox Sang.* 118(1):41-48, 2023

2) Ide Y, Yanagisawa R, *et al*: Relationship between allergic sensitisation-associated single-nucleotide polymorphisms and allergic transfusion reactions and febrile non-haemolytic transfusion reactions in paediatric cases. *Blood Transfus.* 20(2):94-102, 2022

